

第17回 北上川水系河川整備学識者懇談会 議事概要

(事務局説明を除く、質疑応答について記載)

(○：委員、●事務局)

1. 資料-1 北上川上流ダム再生事業 説明資料

<事業再評価手法などに関する質疑応答>

- 説明資料P16の河川整備計画規模とは。
 - 河川整備計画の目標雨量規模まで引き伸ばしたという意味である。
- ダム再生事業前とは、どういう状況か。
 - 四十四田ダムの堤体は現況のまま(河道は河川整備計画に位置付けられるⅡ期整備後)である。
- 説明資料P15と19の図 なぜ氾濫域が違うのか。
 - 雨の規模が違っており、P19は河川整備基本方針規模(1/150)まで引き伸ばしている。
 - P19 右岸側の浸水深が深いのは対応どうするのか。
 - 今後、地域と連携して解消していきたい。
- 問題が無いから事業を進める趣旨かと思うが、四十四田ダムの上流域でどれくらい溢れさせれば気候変動対応の降雨1.1倍に対応できるか等、近未来を考えて計画を考える必要があるのでは。
 - 気候変動の影響も加味して、河川整備基本方針の見直しを本省で進めている。いずれ北上川でもそのような検討を実施していくことになる。貨幣換算できないことについてもいろいろなところでご指摘を頂いている。家を守ればよいというものではなく、東北地方でいえば農業に従事されている方も多く、そのようなことに配慮した治水計画の議論が始まったところである。
- P13 費用に関して、建設に伴いCO₂が多く排出される。それにより気候変動が促進される。その分を発電でCO₂を解消できる、カーボンプライシングのような考えが必要なのは。水力発電の出力を大きくすれば早く解消できる。
 - 今後検討してまいりたい。
- 説明資料P17に示されているB/C1.2は低い。プロジェクトが適切に評価できるようCO₂への影響、異常洪水への効果、将来を見据えたB/Cの検討など、資料としてとりまとめていただきたい。また、H25.9洪水など今後見込まれる異常気象など様々な評価も必要である。
 - H25.9洪水型は盛岡に最も効果のある洪水型である。今後は気候変動の検討を踏まえつつ複数パターンで検討してまいりたい。
- 四十四田ダムは嵩上げしても貯水池の法面の安定性は大丈夫か。
 - 嵩上げ後の地滑りが無いことを確認済である。その他は現在調査中である。
- 説明資料P10の写真を見ると、洪水後の流木流出による衝撃が想定されるが、リスク対

策による事業費変動分も考慮しておく必要があるのではないか。湖面の補償問題等、現時点ではよく分からないこともしっかり考えておく必要がある。

- 今は事業費を据え置いている。今後調査を行い、必要な対策を精査しつつ、コスト削減を考慮し事業費に加味してまいりたい。

<その他の質疑応答>

- 四十四田ダムの景観検討がどの段階で検討できるか教えて欲しい。
- 説明資料P 2 1の調査・設計の段階と考えている。
- 議論する場はあるのか？
- 何らかの形で説明させていただくことになると考えている。
- ダム再生後は平常時水位も上げるのか。
- 確定した情報ではないが少し上がる予定である。
- ダム再生後の水質変化等、事業後のシミュレーションも実施していただきたい。
- 今後検討してまいりたい。

2. 資料-3 北上川水系における流域治水等の取組について

- 水系全体で考える以前に、部分ごとで何ができるかをしっかり把握する必要がある。四十四田ダムの上流で貯める計画、各支川で貯める計画が必要なのでは。
- 支川レベルでも考えていく必要があると考えている。特定都市河川法の改正など、そのような議論が始まってきたところである。
- 流域治水をするなら他機関の行政組織が一体となる必要がある。早く立ちあげなければならない。取り組みは進めているのか。
- 既に協議会が立ち上がっている。
- 河口付近の堤防整備は津波・高潮対策なので、流域治水とは観点が違うのでは。
- 流域治水とは違うものである。一連で完了したので情報提供させていただいたところ。
- 流域治水で利水ダムの利用が言われている。築川ダムの所管は岩手県かと思うが、国と県で連携した操作を実施するのか。
- 今のところは基準雨量に則って各管理者が操作する。連携した操作は今後の課題と考えている。関係機関を一つのテーブルに乗せたばかりで、統合的な対策が必要と考えている。
- ロードマップの短期・中期・長期の時期的なスケジュール感は。
- 効果も示しつつ、整備期間も議論していかなければならないと考えている。
- 単年度の予算だと事業規模が小さいのではないか。大規模な事業を実施するのは弾力的な予算の執行が必要なのでは。
- 気候変動が顕在化してきている。引き続き予算確保に努めてまいりたい。
- 河川工事以外の流域治水（説明資料 p1 の②、③）の予算はどこから得るのか？
- 河川整備計画以外は個別事業で新規事業として採択する形になる。流域治水全ての予算

額まで提示できていない状況だが、一つずつ前に進めたらと考えている。

- 四十四田ダム上流の氾濫を制御する治水計画、樹木管理、下水道等の進め方について教えてほしい。
- 流域治水協議会など、作成済のスキームを活用して検討していくことになるだろうと考えている。

以上